

# ノボル鋼鉄

## 静岡に新鋼材倉庫

### 熱処理加工も拡充

ノボル鋼鉄(本社・東京都千代田区、社長・三上晃史氏)は、静岡支店(静岡市駿河区、支店長・三上裕介常務)の鋼材在庫・配送体制を効率化するため、清水倉庫(静岡市清水区)を建設する。来年2月に稼働を一部開始し、4月から本稼働入りする予定。静岡支店では熱処理センターで今年増設した真空熱処理炉を活用し、ステンレスなど熱処理加工の対象アイテムの拡充も進めていく。

清水倉庫の建設は、事業を行うのも狙い。880平方メートル、ノボル

子会社のノボル精密(本社・静岡市清水区)に隣接する所有地に建設使用する。移設費用などは、景元良浩氏で新設中で、ノボル鋼鉄が主を含む投資額は約2億



完成間近の清水倉庫①、熱処理センターに増設した真空熱処理炉

億円。

ノボル鋼鉄は静岡支店に併設する鋼材倉庫が業容の拡大で手狭となっていたため、構造用鋼丸棒、普通鋼厚板などを移管し、常時在庫量は1300トを予定する。帯鋸盤は移設と更新で8台体制とする。荷役設備は4・8トクレーン1基、2・8トクレーン3基。現鋼材倉庫はバックヤードとして活用する。

ノボル精密は、現在の部品製作事業に加え、新たに特定ユーザー向けの倉庫事業を開始する。新倉庫の内部は壁で仕切っており、ノボル精密側の空間は空調設備も整える。

ノボル鋼鉄・静岡支店は真空熱処理をメインに塩浴熱処理などを手掛け、熱処理事業者としても長年にわたり豊富な実績がある。今年増設した真空熱処理炉はステンレスや小ロットの戦略鋼種などの新規展開に活用する。

今期売上高  
90億円超へ

ノボル鋼鉄  
グループ

ノボル鋼鉄(社長・三上晃史氏)は23年6月期単独決算で増収増益を目指し、ノボル精密、ノボルエンジニアリングと合算したグループ売上高で90億円超を見込む。三上社長は「長期目標に掲げてきたグループ売上高100億円が視界に入った」とする。前6月期単独決算では売上高が前の期より34%増加し、純利益は70%増加した。グループ売上高は約88億円だった。

前6月期の主な設備投資は宮城テクニカルセンターの中型マシンニングセンター更新(約3千万円)、廃業した堀越ラジエーター製作所から譲り受けた熱処理炉3基・洗浄機1基所から譲り受けた熱処理炉3基・洗浄機1基の導入(約5千万円)で、静岡市清水区に建設中の新倉庫関連投資は今期分を含めて約2億円。営業体制の見直しでは大阪営業所を閉鎖し、静岡支店内に西日本チーム(浜松以西担当)を設置した。

今期も特殊鋼販売、機械加工、熱処理加工を3本柱に「量の拡大より質の向上」(同)を重視して収益力強化を図り、商材や事業の多角化を進める方針。